

令和6年度 第34回 大学院セミナー

令和6年8月20日

分野名 Area of Research (責任者名)(内線)	皮膚病態学分野、細胞生物学分野、免疫学分野 責任者名(室田浩之、松下裕樹、青枝大貴) 内線(皮膚科 7333)
演題 Title	ライフサイエンスイノベーション研究ユニットセミナー 「T細胞のセルフ-ネオセルフの識別による 自己免疫疾患発症機構」
講師等 Presenter	大阪大学・免疫学フロンティア研究センター／微生物研究所・免疫化学分野 教授 荒瀬 尚 先生
概要 Abstract	通常、免疫細胞はウイルス等を非自己(ノンセルフ)として認識して攻撃しますが、正常な自己の細胞は認識しません。一方、自己免疫疾患では自己の細胞や組織に対して免疫応答が起きて攻撃してしまいが、その原因は長年にわたり不明でした。免疫応答の司令塔のT細胞はMHCに提示された抗原を認識しますが、MHCクラスII分子の機能異常によって、異常な自己抗原(ネオセルフ)が提示され、その結果、ネオセルフに対するT細胞が活性化されることで自己免疫疾患が引き起こされることが明らかになってきました。実際、全身性自己免疫疾患であるSLEの患者さんで異常に活性化しているT細胞のほとんどが、ネオセルフを認識します。一方、ほとんどの成人はEBウイルスに持続感染していますが、EBウイルスの再活性化頻度が高いとSLE発症のリスクが高くなることが報告されています。興味深いことに、EBウイルスの再活性化によってMHCクラスII分子の機能異常が引き起こされてネオセルフが提示され、SLE患者さん由来の自己応答性T細胞を活性化することも明らかになり、持続感染ウイルスの再活性化と自己免疫疾患の発症との因果関係も明らかになってきました(Mori et al. Cell in press)。そこで、本講演では、我々が解明してきた新たなT細胞の識別機構であるセルフとネオセルフの識別と自己免疫疾患の発症機構について紹介する。
開催日時 Date and Time	令和6年11月13日(水) 17:30 ~ 18:30
開催方法 Online/Face to face	対面: 病院 2F 第4講義室
備考 Notes	共催: 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科ライフサイエンス・イノベーション研究ユニット

- 先端医療科学特論(基礎編)
- 先端新興感染症病態制御学特論
- 日本語(Japanese)
- 対面(Face to face)

- 先端医療科学特論(臨床編)
- 先端放射線医療科学特論
- 英語(English)
- オンライン(Online)